



EXCITING DUATHLON GRAND PRIX CalfMan Japan



カーフマンジャパン・デュアスロングランプリ 2004・南関東ステージ

男子は益田大貴、女子は高木美里、湘南ベルマーレがアベック優勝。

【女子レースレポート】

第1ランから積極的に飛び出したのは、ランには定評のある渡辺亜希子（トライアスロン村上塾）と昨年の南関東ステージの覇者、高木美里（湘南ベルマーレ）。ややペースを押さえながらも後続との差をじりじりと広げる。第2集団には中川恵美（浜松TRC）、新鋭・菊地日出子（Team Griver）、平松智子（三好トライアスロン倶楽部）の3名、さらにその後方には、ベテラン井上由佳子（岡三証券）、昨年の世界選手権代表の豊岡英子（大阪府トライアスロン協会）が続く。

バイクに入ると高木美里のまさに独壇場。明らかに他の選手とは異次元の走りを見せ、完全に独走態勢を築いた。後続の集団から上昇してきたのは菊地日出子と井上由佳子。2人は2周目で渡辺亜希子を捉える、好ペースで周回を重ねるが実際には首位高木との差は広がるばかりであった。結局高木は、第2ランに移っても安定した走りを見せ、他を寄せ付けない圧勝。ほとんど同時に第2ランコースに飛び出した2位争いは、若さの勢いで菊地が制した。3位にはやや気落ちのした井上を、後方からラップ1位の快走で追いつけた豊岡が捕らえ、昨年の世界戦代表の意地を見せた。



【男子レースレポート】

最後の予選ということもあり、過去最高の53名がエリートクラスにエントリー。昨年の覇者、菊地次郎も参戦し大会は大きな盛り上がりを見せた。

まず、第1ランから見せ場を作ったのは、カーフマン初出場の原田正彦（関東RC）。なんと早稲田大学在学中、2002年の箱根駅伝で華の2区を走り、区間賞を獲得した超エリートランナーである。その原田が前半2km過ぎから積極的な走りでレースを引っ張り、中田崇志（関東RC）、菊地次郎（関東RC / 山形泌尿器科クリニック）、国分隆宣（山形県）らのエリートランナーが抜け出し後続を引き離す。バイクに入ると、経験不足からか原田は失速、早くも1周目で菊地が先頭に踊り出る。このまま菊地のレースになるかと思われたバイクの2周目、後方から素晴らしい走りで追いつけたのが益田大貴（湘南ベルマーレ）。益田は前を行くエリートランナーたちを次々とパス。3周目に入って菊地を捉えついに首位に立った。抜かれた菊地も落ち着いて僅か数秒の差を保ったまま周回を重ねる。2人の勝負は第2ランでと皆が思った最後の瞬間、菊地に落とし穴が待っていた。それは痛恨のコースミス。菊地はタイムを大きくロスし、一気に5番手の位置に下がってしまった。

後方からの脅威から開放された益田は、折り返しを含む第2ランに入ると後方との差を確認しながら安定したペースで快調な足取り。2位以下に約45秒という大差を終始保ちながら、カーフマン初優勝を飾った。今回益田が残した、第1ランラップ5位、バイクラップ2位、第2ランラップ5位という見事なまでのバランス感覚は、今後のデュアスロンの戦い方の、各選手の大きな参考になることであろう。第1ラン8位のポジションから徐々に順位を上げていった平松弘道(関東RC/味サ/ニ-フィッシュ)が自己最高位の2位に、3位にはコースミスから怒涛の巻き返しをし、平松にあと一步まで迫った菊地次郎が入賞を果たした。菊地が残した第2ランラップ1位のタイムには日本チャンピオンの意地と誇りが感じられた。チャンピオンシップでの菊地の巻き返しに期待したい。

この件に関するご質問は

カーフマン・ジャパンデュアスロン大会事務局

担当：清本 直

〒206-0802 東京都稲城市東長沼2-120-6 グランヴェルジェ104

TEL 042-379-5201 FAX 042-379-1992

URL <http://www.mspo.jp/calfman> E-mail calfman@mspo.jp

社団法人日本トライアスロン連合 <http://www.jtu.or.jp>

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F

TEL 03-5469-5401 FAX 03-5469-5403